

地震ハザードマップ

揺れやすさマップ

●揺れやすさマップとは？

我孫子市に大きな影響を及ぼす地震として、「茨城県南部地震」と日本のどこでも起こり得る直下の地震があります。これらの地震による揺れを予測し、最も大きい揺れを予想した直下の地震の震度を50mメッシュ単位で表示しました。

なお、想定した震度は地形や地質区分などから算出したもので、必ずしもこの図のようになるとは限りません。

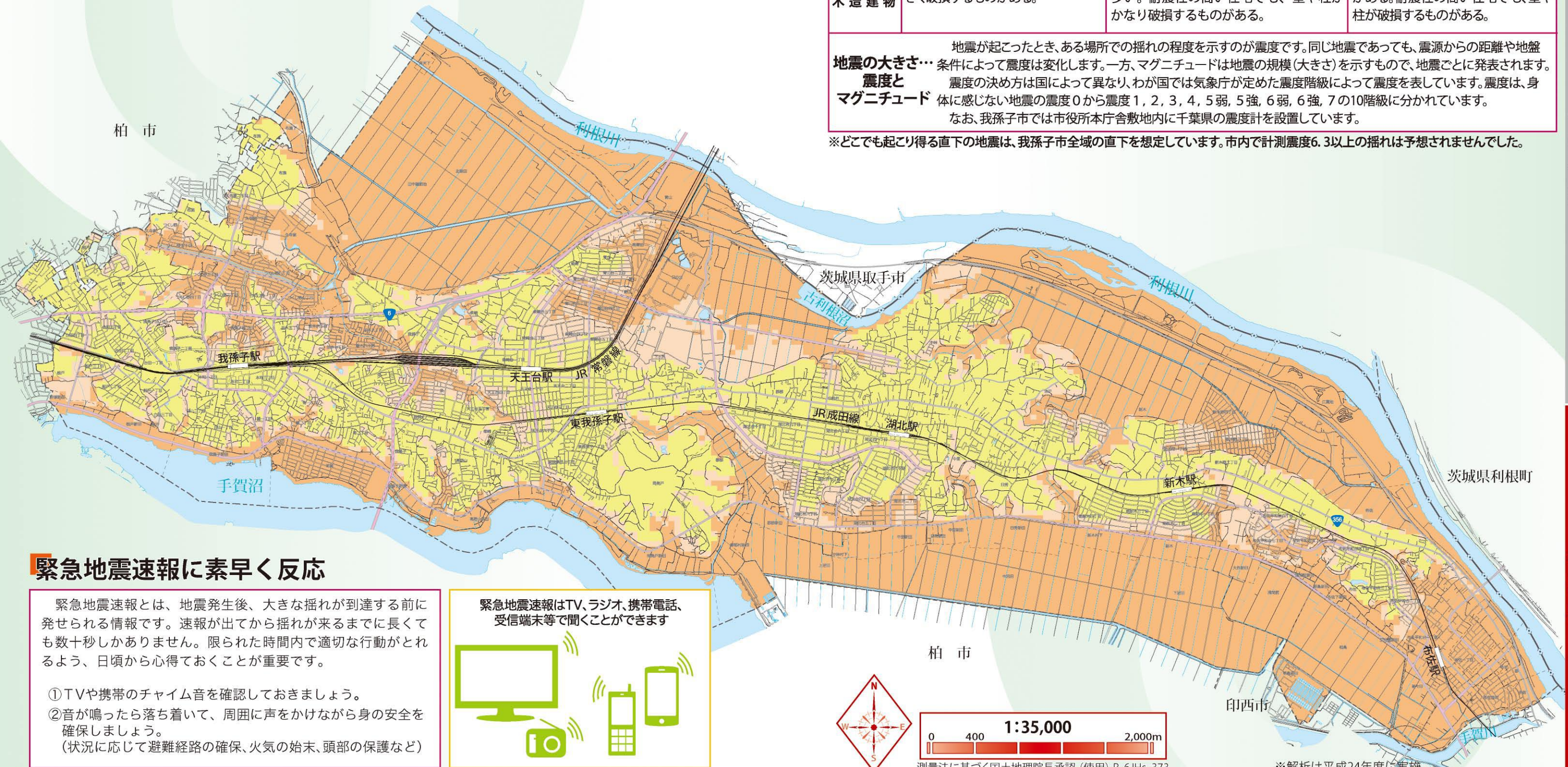
凡例 Legend

気象庁震度階級関連解説表をもとに作成

震度階級 計測震度	震度7 6.5~	震度6強 6.4 6.3 6.2 6.1 6.0	震度6弱 5.9~5.5
人間	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	立っていることが困難になる。
屋内の状況	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
屋外の状況	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
木造建物	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

地震の大きさ…震度とマグニチュード
 地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を示すのが震度です。同じ地震であっても、震源からの距離や地盤条件によって震度は変化します。一方、マグニチュードは地震の規模(大きさ)を示すもので、地震ごとに発表されます。震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定めた震度階級によって震度を表しています。震度は、身に感じない地震の震度0から震度1, 2, 3, 4, 5弱, 5強, 6弱, 6強, 7の10階級に分かれています。なお、我孫子市では市役所本庁舎敷地内に千葉県製の震度計を設置しています。

※どこでも起こり得る直下の地震は、我孫子市全域の直下を想定しています。市内で計測震度6.3以上の揺れは予想されませんでした。



緊急地震速報に素早く反応

緊急地震速報とは、地震発生後、大きな揺れが到達する前に発せられる情報です。速報が出てから揺れが来るまでに長くても数十秒しかありません。限られた時間内で適切な行動がとれるよう、日頃から心得ておくことが重要です。

- ①TVや携帯のチャイム音を確認しておきましょう。
- ②音が鳴ったら落ち着いて、周囲に声をかけながら身の安全を確保しましょう。
(状況に応じて避難経路の確保、火気の始末、頭部の保護など)

緊急地震速報はTV、ラジオ、携帯電話、受信端末等で聞くことができます



測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 6JHs 737

※解析は平成24年度に実施